様式第3号（第5項関係）

令和7年度　嘉麻市立碓井義務教育学校　学校評価 報告書

【学校の教育目標】

対話と協働、思考と創造
～志を持ち社会にはばたく児童生徒の育成～

【本年度の重点目標】
〇基礎・基本と学び方の定着
〇共感的人間関係の醸成
〇自尊感情・自己有用感の向上

領域	項目	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
学校経営及び学校組織	校内組織運営の充実	1-1 本年度の重点目標を意識して取組を行っている。 〈結果〉AB評価：85% 定期的に実施する評価活動の内容を本年度の重点目標に整合させて実施してきた。	3.0	〇夢の実現への教育目標、重点目標が設定され、それを叶えようとする教育に感謝している。	□取組を焦点化し、確実な実行により成果を喜びあえる協働体制づくりを継続する。
		1-2 校務分掌で担当する具体策を実行できた。 〈結果〉AB評価：85% 年度当初に係の年間計画を立て、それに基づき実行してきた。	3.2	〇具体策を講じた結果が評価の対象として必要である。	□部や係の担当者がそれぞれの組織における取組のねらいを共有し、具体策のさらなる具体化、役割の明確化を推進する。
		1-3 CAP-Dサイクルにより、取組を振り返り改善につなげた。 〈結果〉AB評価：82% 月に1回の校務分掌部会において、取組等の評価・改善をしてきた。	2.9	〇次年度の教育指導計画書にどのように反映させるかを示してほしい。	□校務分掌の組織を一部改善し、より機能化させる。教育指導計画書の計画を改善しながら実施していく。
		1-4 学年部会、学年会での話し合いは充実している。 〈結果〉AB評価：92% 週に一度、学年部会・同学年会を設定してきたことで、情報や成果、課題の共有が図られてきた。	3.4	〇1年生から9年生までの子供を中心に据えた取組をするためにも、横の連携だけでなく縦の連携も必要だと思う。	□子どもを中心に据えた取組について話し合ったり、振り返ったりすることが日常的にできている。取組を継続していく。
		1-5 いじめ問題には、組織的に対応できている。 〈結果〉AB評価：95% いじめ問題には特に気を配り、指導の徹底を図ってきた。いじめ問題対策委員会を核として、日常的に情報共有し、組織的に対応してきた。	3.4	〇日々の子供たちの見取りと苛めに対する初動がどのようにされているかを示してほしい。	□いじめ問題に対する教職員の対応能力を高めるために職員研修等を充実させる。 □学校としての指導方針や対応策を確立し、報告・連絡・相談のシステムを徹底していく。
		総合所見		〇教職員が共通の目標に向かって協働的に努力したことで、学校力が向上した。 〇教職員一人一人が自己の責任を果たしながら協働して学校の教育目標や重点目標の達成に向かう気持ちを醸成する。 〇来年度は、校務分掌組織を一部改善するとともに、PDCAサイクルを通して絶えず取組の改善が図れるようにしていく。	
学力の向上	学習活動づくり	2-1 基礎基本の徹底を図るため、形成的評価を生かして取り組んだ。 〈結果〉AB評価：78% 学力向上コーディネーターと指導方法工夫改善教員が連携し、一人も取り残さないことを目指して取組を進めることができた。	2.9	〇常に研究・研修されている先生方に感謝している。 〇数値評価は低いように感じる。今年の形成的評価のポイントを示してほしい。	□これまでの実践を土台とし、誰一人取り残さない取組を継続する。
		2-2 わかる授業づくりのため、分割授業やTT授業の効果的な実施に努め 〈結果〉AB評価：70% 習熟度に応じた分割授業を実施し、学力低位層の底上げを図った。	2.8	〇義務教育学校の特色を生かしてもっと乗り入れ授業や異学年交流などを推進してほしい。	□共通実践が進み、成果が得られた。学力層に応じた個別最適な学習・支援の構築に向け、実践を継続する。 □より効果的な取組になるように指導方法工夫改善等の活用方法を検討する。
		2-3 考える授業づくりのため、書いたり交流したりする場を多く設定した。 〈結果〉AB評価：78% 学校全体で、授業づくりスタンダードをいかした授業づくりを行ってきた。	3.0	〇義務教育学校として1年生から9年生まで系統的に力をつけていってほしい。	□学校全体で、授業づくりスタンダードをいかした授業づくりを通して、研究を深めていく。
		2-4 家庭学習の習慣化に向けた取組を継続した。 〈結果〉AB評価：85% 「家庭学習強化週間」や「家庭読書」の取組を実施した。また、個人の課題に応じた内容と量にできるよう配慮してきた。	3.1	〇家庭学習において、課題に向き合えるようにしたり学習意欲を高めるようにしたりする工夫がされている。	□それぞれの課題に向き合うことができるような家庭学習になるよう、工夫していく。（AIドリルの効果的な活用） □固定化している宿題をしてこない子に対する働きかけを工夫する。
		2-5 地域の「ひと・もの・こと」を授業で活用した。 〈結果〉AB評価：58% 積極的にGTを招いたり地域に出かけたりすることができた。	2.6	〇5年生の「米作り」の学習は大切な学びの機会だと思う。また、「地域の魅力を伝えよう」「嘉麻市の特産品をPRしよう」の発表も分かりやすく素晴らしかった。	□地域の「ひと・もの・こと」を積極的に活用し、ふるさと学習のカリキュラムを実践していく。 □「かまカルタ」「かまタイピング」を日常的に活用する。
		総合所見		〇指導方法工夫改善教員を少人数指導やTT授業で効果的に活用したことで、CD層の児童生徒の理解の促進と、自尊感情や意欲の高まりが見られた。 〇組織全体で学力向上の方向性を共有し、実行し、見取り、取組を改善し続ける仕組みを確立し、継続的に検証改善サイクルを回していく。	

人間関係力の育成	人間関係づくり	3-1 気持ちの良い挨拶ができるように指導した。 〈結果〉AB評価：92% 児童会と生徒会が中心となり強化週間等を設定して取り組むことができた。	3.3	○あいさつ運動（強化週間）の時、児童生徒会の皆さんが校門で挨拶をしながら児童生徒の皆さんを迎える姿がいい。	□挨拶を交わすことが特別な事でなく、常態化できるような取組の工夫をしていく。 □児童会・生徒会が一体となって取組を進める。
		3-2 人とつながる言葉や行動をとれるように指導した。 〈結果〉AB評価：95% 義務教育学校のよさを生かし、異学年交流を積極的に行った。	3.2	○後期課程の生徒が前期課程の児童をお世話している姿がほほえましい。	□教師側のねらいと児童会・生徒会の活動をマッチさせた取組を継続していく。 □集会や総合的な学習の時間において、異学年交流を推進する。
		3-3 ルールやマナーの大切さを考えさせ、守れるように指導した。 〈結果〉AB評価：97% 小さな問題を見逃さずに対応するよう心掛けてきた。同学年や近接学年での情報共有と綿密な対応に努めた。	3.2	○放課後や休日、自転車の乗り方のマナーが気になる。	□複数の目で子どもの様子を気にかけ、少しのことでも情報共有できるような教師集団を目指す。 □児童生徒の主体性を重視した取組を進める。
		3-4 人権教育推進の視点を意識し、自分も人も大切にするように指導し 〈結果〉AB評価：91% 学級経営において人権尊重精神の涵養を意識的に取り組んでいる。また、定期的に人権学習を実施した。	3.2	○今後も、人権教育を基盤に据えた教育活動を展開してほしい。	□人権学習や日常的な人権教育を継続する。 □人権が尊重される「学習活動づくり」「人間関係づくり」「環境づくり」を一体となって進める。
		3-5 善悪が判断できるよう、良いことは誉め悪いことは毅然と指導した。 〈結果〉AB評価：95% 誉めることに努めてきた。子どもたち同士での認め合いも意識して取り組ませてきた。	3.4	○小中が一緒になったことにより学年に関係なく子どもたちの様子を色々な角度から見ていただいていると思う。	□教師側のねらいを明確にし、誉める・認めるを適切に行う。 □全職員が同じ基準で指導できるように「生活のきまり」など、情報を共有する。
		総合所見	○いろいろな形の異学年交流を実施することで、上級生へのあこがれや下級生への思いやりなど、精神的な成長・発達につながった。来年度も、碓井ならではのよさを生かしより交流が進むように積極的に推進していく。 ○SNSのトラブル等を喫緊の課題ととらえ、全学年で計画的に情報モラル学習ができた。		
不登校の解消	環境づくり	4-1 学級が安心・安全な居場所となるように学級経営を行った。 〈結果〉AB評価：94% 1人1人が教室で自己存在感を味わうことができるように取り組んでいる。発達段階に応じて、学級での取組を進めている。	3.2	○落ち着いた学校、学級になれば、いろいろな問題はなくなると思う。	□人権教育の視点を意識して、自己存在感や自尊感情を高める取組を継続する。
		4-2 理由が不明な遅刻や早退について、適宜、指導・支援した。 〈結果〉AB評価：89% 毎朝、遅刻や欠席者を職員室のホワイトボードに書き込んで共有している。連絡がとれないときは家庭訪問をして安否確認を行っている。	3.2	○遅刻の多い児童生徒で、早く登校できるようになった児童生徒がいるのでうれしい。	□「福岡アクション3」の徹底を図る。 □毎日、欠席や遅刻の理由を聞き取り、対応していくことを継続する。ケースによっては、福祉側からのアプローチも必要であるので、関係機関との連携も図っていく。
		4-3 問題の早期発見のため、子どもの言動を気にかけ、話をよく聞いた。 〈結果〉AB評価：89% 朝の健康観察の時から一人一人の様子を観察し、担任だけでなく多くの目でSOSを見逃さないよう努めた。	3.2	○朝の健康観察で児童生徒をしっかり観察していただいていることに感謝している。	□諸会議を活用し、全職員の情報共有を密に行う。 □生活アンケート、教育相談など早期発見につながる取組を計画的に行う。
		4-4 気になる事は、保護者と話したり関係機関につないだりした。 〈結果〉AB評価：80% 担任は保護者と日常的に連絡をとっている。気になる事は同学年や担当の係、管理職、関係機関を含めて組織的に対応している。	3.0	○今後も保護者と連携を図って素早い対応をしてほしい。	□日常的に学年部会や同学年会のメンバー同士で情報交換を行い、その中で課題の共有や対応策等を協議していく。（一人で問題を抱え込まないようにする。）
		4-5 出欠の状況を把握し、学年で話したり対策委員会に提起したりした。 〈結果〉AB評価：92% 適宜、マンツーマン会議を実施した。また、関係機関等とも情報を共有しながら対応策等を検討している。	3.1	○学校、保護者、地域、関係機関がしっかり連携して対策・対応することが大事だと思う。	□役割分担を明確にし、取組を継続する。 □児童生徒の実態に応じた支援を行うため、関係機関やSC、SSWと連携するなど、不登校の改善・解消に向けた対応の工夫を図る。
		総合所見	○不登校解消に向けて、地域や関係機関等と連携協力し、児童生徒への指導援助、保護者への働きかけや支援を講じることができた。 ○児童生徒が安心して学校生活が送れるように、積極的な生徒指導を展開していく。 ○不登校対策委員会で組織的な対応を確認するとともに、早期発見・早期対応に向けて確実に報告・連絡・相談を徹底させていく。 ○諸問題に対して学校、保護者、地域、関係機関との連携を強化していく。		